





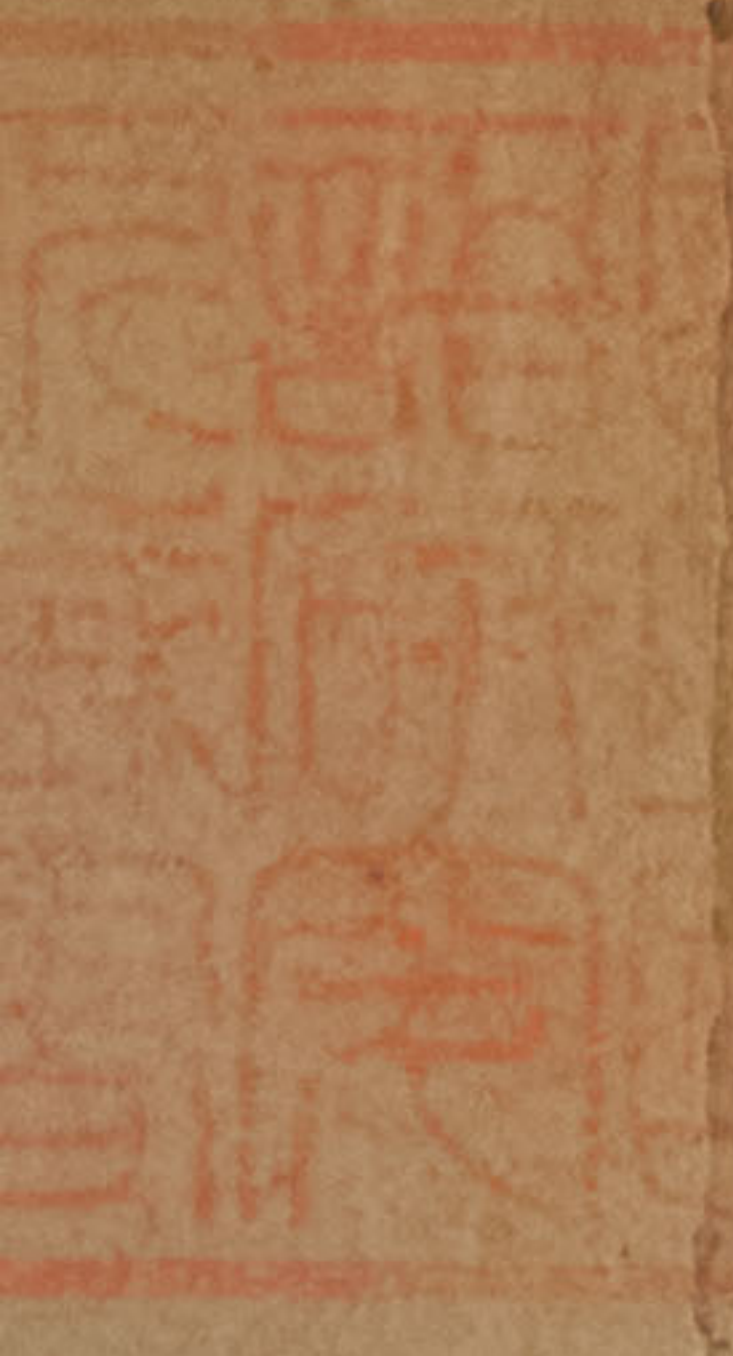
音韻調查報告書

音韻



音韻

4685



4685

4685
44-087
3-4
K. 176

凡例

- 一、本書ハ音韻取調事項ニ對スル各府縣ノ調査報告書ノ本文ヲ一箇條ゴトニ取纏メタルモノナリ、但シ報告書ニ添附セル地圖ハ都合ニヨリテ今全ク之ヲ省キタリ。
- 二、府縣ノ順序ハ文部省所定ノ學區表ニ依リ、市郡等ノ順序ハ明治三十六年五月鐘美堂發行ノ市町村一覽ニ依リテ配列セリ。
- 三、一府縣ニ數種ノ調査報告アルトキハ左ノ順序ニ依リテ載録セリ。
 - 一、一府縣全體ニ就キテノ概括的報告
 - 二、同府縣下ニ於テ數郡ヲ一括シタル範圍又ハ一國全體ニ就キテノ概括的報告
 - 三、同府縣下各市郡ニ就キテノ報告
 - 四、東京府女子師範學校ノ報告ニハ府下各郡ノ調査報告ニ基キテ調製セル音韻變化表及ビ其ノ説明書ヲ添ヘタリ、又或ル府縣若クハ或ル區域ノ調査報告ニハ取調事項以外其地方音韻ノ特點及ビ書方等ニ關スル備考若干アリ、並ビニ本書ノ末ニ摘録セリ。
 - 五、本書ハ報告書原文ノ體裁ヲ存スルヲ以テ主眼トセリ、但シ意義ニ變動ヲ及ボサル場合ニ限り、時トシテ語句ヲ節略シタルコトアリ。
 - 六、各府縣ニ於ケル調査區域ノ分チ方、調査者及ビ附圖等ニ關シテハ本書ノ尾ニ載セタル各府縣音韻調査區域一覽ヲ參照スベシ、但シ調査者ノ名ハ同一區域

ノ調査報告數種アル場合ニ限り、區別ノタメ特ニ本文下ニモ記入セリ。
七、調査報告書ノ缺ケタル市郡町村等ハ單ニ其ノ市郡町村等ノ名ヲ掲ゲテ其ノ
下ニ餘白ヲ存シタリ。

音韻調查報告書目次

序言

音韻分布圖ニ關スル注意及ビ分布圖目錄

音韻調查報告書

音韻調查報告書附記

各府縣音韻調查區域一覽

音韻調査第一期ノ事業トシテ、主トシテ普通教育ニ於

序 言

本會ハ音韻調査ノ第一期ノ事業トシテ、主トシテ普通教育ニ於

ノ如キ種々ノ缺點アルヲ發見セリ。

序言

本會ハ音韻調査ノ第一期ノ事業トシテ、主トシテ普通教育ニ於ケル假名遣ノ改正及ビ標準的發音ノ制定ノ參考ニ供センガ爲メ、調査事項二十九箇條ヲ印刷ニ附シ明治三十六年九月九日之ヲ各府縣ニ發送シテ其調査ヲ依囑シタリ。其際添ヘタル注意書左ノ如シ。

一、府縣廳若クハ師範學校又ハ府縣教育會内ニ便宜委員會ヲ設クルコト。

一、前項ノ委員會ニ於テハ縣内ヲ便宜數區ニ大別シ其區内ノ學校又ハ教育會ヲ指定シテ調査ヲ依囑スルコト。

一、方言ハ其地方固有ノ言語ニシテ他ノ言語ノ影響ヲ蒙ラザルモノヲ掲グルコト。

一、區ト舊藩領域ト關係アルモノハ其藩名ヲ附記スルコト。

一、報告書ニハ府縣管内略圖ヲ添附スルコト。
調査報告ノ大半府縣ヨリ本會ニ到着シタルハ本年二月中ニシテ、其全ク本會ニ送附濟トナリタルハ四月初旬ニアリ。故ニ當時既ニ方言ノ調査ニ着手シ若クハ調査ヲ完了シタル少數ノ府縣ヲ除キ多クノ府縣ハ本會ノ依囑ニ應ジテ三ヶ月乃至五ヶ月ノ短日月ノ間ニ於テ調査及ビ其取纏メニ從事シタルモノナリ。尙ホ報告ノ不明ナルモノ及ビ特ニ或ル區域ニ於ケル報告ノ全部若クハ一部ノ漏レタルモノ等ハ再ビ當該府縣ニ照會シ増補ヲ得タルモノモアリ、又都合ニ依リテ遺漏ノマ、ニナシ置キタルモアリ。本會ニ於テ各府縣ヨリ回附セル調査報告ヲ整理スルニ方リテ左

ノ如キ種々ノ缺點アルヲ發見セリ。

第一、調査區域ノ分チ方及ビ調査報告ノ纏メ方ハ府縣ニヨリテ大小精粗ノ別アリテ一貫セザルコト。(各府縣音韻調査區域一覽參照) コノ點ヨリ報告書ハ左ノ三類ニ分ル。

イ、一縣全體ノ概括的調査ヲ報告シタルモノ。

此種ノ報告ノ内ニハ間々地方的差別ヲ記入シタルモアリ、又當事者ガ元ト市郡及ビ其他ノ小區劃内ノ調査報告ニ基キテ概括シタルモノモアルベシト雖モ要スルニ概括ノ廣キニ過グルノ憾アリ。

ロ、一縣ヲ數區劃ニ分チ各區劃内ノ調査ヲ報告シタルモノ。コノ種ノ報告ノ内ニハ間々地方的區別ヲ記入シタルモノアリ。

ハ、一府縣ニ於ケル各市郡内ノ調査ヲ報告シタルモノ。

此種ノ報告ノ内ニハ、更ニ町村等ノ小區劃ヲ設ケテ各小區劃内ノ調査ヲ報告シ又間々其他ノ地方的差別ヲ記入シタル郡アリ。又其府縣ニ於テ市郡及ビ其他ノ調査報告ヲ整理又ハ概括スルコトナクシテ材料ノマ、回送シ來リタルモノト、管内各區域ノ調査報告ト共ニ之ニ基キテ整理者ガ概括シタルモノヲ添ヘテ回送シ來リタルモノトノ二種アリ。

第二、各府縣ノ舊藩領域圖、方言及ビ音韻ノ分布圖ヲ添附セルコト極メテ少ナキコト。(各府縣音韻調査區域一覽參照)
舊藩領域圖ヲ添ヘタルハ青森、島根、(但シ石見國) 大分、佐賀

等數縣、方言分布圖ヲ添ヘタルハ熊本縣、音韻分布圖ヲ添ヘタルハ佐賀縣(但シ「カ」「ク」分布圖一葉)ノ報告書ナリ。

第三、同一事項ニ對スル同一地方ノ調査報告ニシテ、調査者ノ異ナルガタメ彼此相矛盾スルコトアル場合ニ於テ府縣ノ整理者適宜ノ判定ヲ與ヘズシテ報告シ來リタルコト。

第四、或ル府縣ノ報告ニ於テハ間々町民ト舊藩士トニヨリ、教育ノ有無ニヨリ、讀書語ト平常語トニヨリ、緩急ノ別ニヨリ、發音ニ相違アル點ヲ指示シタルモノアレドモ、多クノ報告ニハコノ種ノ注意ヲ缺キタルコト。

第五、調査者ガ聲音ノ識別力乏シキト國語學上ノ智識及ビ方言調査上ノ注意ノ不十分ナルトニヨリ、往々不正確ナル報告ヲナシタルコト。

今回ノ調査ハ第一期ノ調査ニ屬シ、未ダ本會ヨリ人ヲ派シテ同一ノ標準ニ據リテ精密確實ニ各地方ノ音韻ヲ調査セシムルノ時期ニ達セザルヲ以テ、各地方ノ調査報告ノ斯ク不統一ニシテ又多少不確實不完全ナルモノアルニモ拘ハラズ、暫ク之ヲ研究ノ資料トナシ、敢テ擔任者ノ私見ヲ以テ改修スルコトナシ。

全國ヲ通ジテ音韻ヲ調査シタルハ、曩ニ故理學博士矢田部良吉ガ「カ」「ク」ヲ區別スル範圍ヲ廣ク各地方出身ノ人ニ質問シテ其答案ヲ得タルコトアル外未ダ聞カザル所ニシテ、尙ホ今回ノ如ク種々ノ事項ニ就キテ適當ナル方法ヲ以テ普ク全國ニ涉リテ調査シタルコト從來ニ其前例ナキ所ナルヲ以テ、整理者ハ種々ノ困難ニ遭遇シタリ。音韻分布地圖調製ノ際、下圖トスベキ適當ナル輪廓地圖ト參考ニ供スベキ精密ナル歴史地圖及交通沿革

本地圖ハ材料ノ不完全ナルト準備ノ不十分ナルトニヨリテ、學術上正確ナリト云フ能ハズト雖モ、之ニヨリテ全國發音分布ノ概況ヲ知ラシメ、國語調査上及ビ國語教育上ニ裨益ヲ與ヘ、尙

地圖トノ備ハラザリシガ如キモ亦整理上ノ不便ノ一ナリキ。加フルニ、短時日ヲ期シテ整理セザル可カラザル事情存シタルガ故ニ、整理ノ結果ノ科學上正確ト斷ズベキノ域ニ達スル能ハザルハ止ムヲ得ザル所ナリ。只今日ノ學術界ノ程度ニ於テハ、之ニ由テ全國發音分布ノ概要ヲ知り今後ノ國語調査及ビ國語教育ノ上ニ有益ナル參考トナスト共ニ後來ノ研究ノ地歩ヲ作ルヲ得タルヲ以テ満足スルノ外ナシ。

各地方ノ調査報告ノ本文ハ普ク學者ノ研究ニ資センガタメ、一ケ條毎ニ取纏メテ之ヲ印行頒布シ、別ニ本會ニ於ケル整理上、每條ノ概要ヲ摘録シテ音韻調査成績表三冊ヲ編成シテ一覽ニ便ニセリ。表ハ次ノ三部ヨリ成ル。

第一、長音ノ部、第一條ヨリ第九條ニ至ル九ケ條。

第二、母音及ビ半母音ノ部、(分布圖ニ於テハ、
二部ニ分テリ)第十條ヨリ第十九條

ニ至ル十ケ條。

第三、子音ノ部、第二十條ヨリ第二十九條ニ至ル十ケ條。

各部内毎條答案ノ要旨ハ八區域ニ分ケテ記載シタリ。其際各區域ニ包含セラル、府縣ノ順序ハ整理ノ便宜上整理者ニ於テ之ヲ定メタリ。

次ニ音韻調査成績表ニ基キテ一ケ條毎ニ各府縣ノ發音ヲ統計的ニ概括シ、其概要ヲ色彩ニテ表ハシ、之ニヨリテ各府縣發音分布ノ有様ヲ一目瞭然タラシメンガタメ、音韻分布色分ケ統計表ヲ編製セリ。然レドモ該表ハ尙ホ未ダ各地音韻分布ノ有様ヲ十分ニ表ハシ難キノ缺點アルヲ以テ更ニ一層之ヲ見易カラシメンガタメ、今回頒布スル所ノ分布地圖ヲ編製シタリ。

龜田次郎ノ兩人之ニ任ジ、報告書本文ノ整理ハ調査事務囑託紳原叔雄、同文學士龜田次郎ノ兩人之ニ當レリ。

調査シタルコト從來ニ其前例ナキ所ナルヲ以テ、整理者ハ種々ノ困難ニ遭遇シタリ。音韻分布地圖調製ノ際、下圖トスベキ適當ナル輪廓地圖ト參考ニ供スベキ精密ナル歴史地圖及交通沿革本地圖ハ材料ノ不完全ナルト準備ノ不十分ナルトニヨリテ、學術上正確ナリト云フ能ハズト雖モ、之ニヨリテ全國發音分布ノ概況ヲ知ラシメ、國語調査上及ビ國語教育上ニ裨益ヲ與ヘ、尙ホ將來ノ研究ノ基礎ヲ作ルヲ得ベキナリ。

今其裨益トナルベキ點ヲ舉グレバ左ノ如シ。

一、標準音及ビ標準語法ノ制定、假名遣ノ改正等ニ就キテ有力ナル參考トナルコト。

二、將來ノ國語教授ニ對シテ有益ナル資料ヲ供シ確固タル方針ヲ與フルコト。

三、言語區域ヲ定ムルニ就キテハ音韻ヲ目安トスルコト最モ便利ナレバ、今回調査ノ結果ハ本邦ノ言語區域ヲ定ムル根據トナルベキコト。

四、古音保存及ビ音韻轉化ノ範圍ヲ示スコト。

要スルニ、今回第一期ノ調査ハ今後第二期ノ調査ノ基礎ヲナスモノニシテ、本會ハ第二期ノ調査ニ於テハ準備ヲ整ヘ完全ナル方法ニ由リテ第一期編製ノ音韻分布圖ヲ修正補足スルト共ニ、進ンデ各地方ニ特有ナル音韻及ビ音韻轉化ヲ調査センコトヲ期ス。其際ニ於テハ、全國ヲ若干ノ區域ニ分チ本會ヨリ委員ヲ派シテ調査セシムルト同時ニ各府縣ノ師範學校内ニ調査部ヲ置キ更ニ其下ニ調査支部ヲ設ケテ調査セシメ以テ各部ノ調査ヲ本會ニ於テ統合スルノ組織トナスガ如キモ事業ヲ大成スルニ就キテ便宜ナル方法ノ一ナルベシ。

調査報告ノ整理及ビ音韻分布圖ノ調製ハ主査委員文學博士上田萬年監督ノ下ニ、補助委員文學士新村出、調査事務囑託文學士

ヲ編製セリ。然レドモ該表ハ尙ホ未ダ各地音韻分布ノ有様ヲ十分ニ表ハシ難キノ缺點アルヲ以テ更ニ一層之ヲ見易カラシメンガタメ、今回頒布スル所ノ分布地圖ヲ編製シタリ。

龜田次郎ノ兩人之ニ任ジ、報告書本文ノ整理ハ調査事務囑託榊原叔雄、同文學士龜田次郎ノ兩人之ニ當レリ。

明治三十七年六月

國語調査委員會

